

「だろう・でしょう」の単独形式表現

賴錦雀

「だろう・でしょう」之單獨形式表現探究

賴錦雀

中文摘要

本論文的研究對象為日語助動詞「だろう・でしょう」之單獨形式表現。

根據時枝誠記「詞辭論」的說法，日語的助動詞不能單獨使用，必須接在其他語詞的後面。然而，在日語的言談語料中，時常可以看到助動詞「だろう・でしょう」之單獨形式表現。根據筆者的了解，到目前為止鮮少有論文對此現象加以論述。本論文乃從形態論、語意學、語用論的觀點，探討「だろう・でしょう」之單獨形式表現的特色。結果發現，「だろう・でしょう」之單獨形式表現和其他助動詞之單獨形式表現一樣，為一「省略表現」，乃是日語「共話現象」的組成分子之一。其成立條件在於其前面省略部分之句尾的形態及其意義。而其後所接的終助詞有其特定的制限。

最後，筆者提出「だろう・でしょう」之單獨形式表現可以視為乃由單一語詞所組成的「單語句」之論點，提醒日語教育界不應忽視此一現象，應適時提出、導入此一表現，以俾增進日語學習者之會話能力。



「だろう・でしょう」の単独形式表現

賴錦雀

1、はじめに

(1) 「辻口はどうなんだ」

「女の子なんか、みたくもないね」

「だろうさ。………」 (三浦綾子『氷点』 p60 朝日新聞社 1965)

(2) 宮内 ……このままでは、二十一世紀に今よりいい社会を残していくのか、非常に疑問を持っている。

堀 そういう気持ちは、いつから持ち始められたんですか？

宮内 ここ数年ですね。

堀 でしょう。宮内さんの中で変化が起きているんですよ。

(宮内義彦・堀紘一「経営者十番勝負」 『週刊朝日』 1997年11

月14日号 p124)

日本語の言語資料では(1)(2)のように、「だろう・でしょう」が単独の形式で用いられる表現が認められている。時枝 (1941:351) の「文の成立の第一条件が、詞と辭との結合である」という詞辭論では、このような助動詞¹が単独形式で文の成分に成り得ないとされているためであろうか、管見の限りでは、それに関する先行研究は僅か金 (1995) しか見られないようである。確かに文レベルの文論では、(1)(2)のような「だろう・でしょう」の単独形

¹ 「だろう」「でしょう」は、日本の学校文法では「だ」「です」の活用形として扱われているが、ここでは寺村 (1984:51) や阪倉 (1986:261,266-267) に従い、助動詞として取り扱うことにする。

式は完全な文法的な文として認められることは有り得ないかも知れないが、談話のレベルでよく用いられている表現なので、それについて研究する必要があると思われる。本稿は「だろう・でしょう」にしぼって、形態論的側面、意味論的側面、語用論的側面の観点から考察して単独形式化された「だろう・でしょう」の特質を究明した上で、「だろう・でしょう」が一語文であることを提出し、日本語教育の話し方指導における「だろう・でしょう」の位置付けを論じたい。

2. 形態論的考察

この項では、「だろう・でしょう」の語形、「だろう・でしょう」の単独形式における省略部分の文末形態、「だろう・でしょう」と終助詞との共起について考察したい。

2.1 「だろう・でしょう」の語形

(3) 林 デンドロ?

つか 僕が作った言葉なんだけど、一家で香典泥棒をやって渡り歩いているっていう設定で、「蒲田行進曲」の完結編ね。小夏から生まれた女の子が六つになるときからの話なんだけど、その女の子が難病で死ぬし、小夏も銀ちゃんのことを忘れられなくて、それで小夏はヤスと離婚して……。

林 あ、可哀相。ヤスが捨てられちゃうんだ。でもふつう、みんな風間杜夫のほうをとりますよね。(笑い)

つか だろ? 変えたんだ。暗い話なんだけどね。

(林真理子／つかこうへい「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』

1997年4月11日号 p52)

(4) 孫 日本はただできえ遅れてるんです。一人当たりのパソコンの普及率は世界で十七番目だし、インターネットの普及率は二十五番目です。イタリアにもイギリスにもフランスにもシンガポールにも負けてるんです。

林 日本って、一番エレクトロニクスが好きだと思っていましたけど。
孫 でしょう？ 「電子立国」といいながら、日本は最先端の電子の世界で、完全に置いていかれて、しかも差が開いている。…

(林真理子／孫正義「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997年4月4日号 p52)

(5) 内館 ……そんなレベルの武将だったから、こんな視聴率でよかったです。

林 すごくわかりやすいよね。「こういう国がありました」と解説つき。

内館 でしょう？ ……

(林真理子／内館牧子「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997年3月14日号 p48)

単独形式の「だろう・でしょう」は、(1)(2)(4)のような形で用いられるのが普通であるが、(3)(5)のように「だろ・でしょ」という短呼形で用いられることもある。もともと「だろう・でしょう」は「だ・です」の未然形に助動詞「う」が付いて、推量、意志、勧めなどの意味を表すものであるが、短呼形においては、推量、意志、勧めなどの意を表す助動詞「う」が消えている。もちろん、こういう短呼の現象は、「帰りましょ」のように、すべての「う」が付くような表現に起きる現象で、「だろう・でしょう」に限るものではない。

2.2 「だろう・でしょう」における省略部分の文末形態

文は基本的に客体的な事柄を表す部分と、話し手の主体的な態度を表す部分からなる。前者は「コト」「命題」「言表事態」と呼ばれ、後者は「ムード」「モダリティ」「言表態度」と呼ばれる²が、助動詞は普通、前の「コト」や「命題」「言表事態」と言われるものに連なって、話し手の心的態度（つまり「ムード」「モダリティ」「言表態度」と呼ばれるもの）を表す役割を果た

² 寺村（1982）第1章、益岡（1987）、仁田（1989）を参照。

すものである。そうすると、「だろう・でしょう」の単独形式は、その前の客体的な事柄を表す叙述部分が省略されたことによってできた用法だと言えよう。森岡（1980）は省略について次のように述べている。

1. 言語の省略とは、話し手、聞き手あるいは観察者によって、ある要素が省かれていると実感される現象である。
2. 省略されていると意識される要素は、久野暉氏の「省略の根本原則」にあるとおり、言語的あるいは非言語的文脈から復元可能でなければならない。
3. 省略されている意識は、他の言語表現と比較することによって生じる。

一体、「だろう・でしょう」の前に、何が省略されたのか、それを復元して考えてみたい。上の用例を文脈によって復元すると、次のようになる。

- (1*) 辻口は女の子なんか、みたくもない／だろうき。
- (2*) そういう気持ちが持ち始められたのはここ数年／でしょう。
- (3*) ふつう、みんな風間杜夫のほうをとる／だろ？
- (4*) 日本って、一番エレクトロニクスが好きだと思っていた／でしょう？
- (5*) 「こういう国がありました」と解説つきで、すごくわかりやすい／でしょ？

(1*)～(5*)は用例(1)～(5)における「だろう・でしょう」の単独形式を復元したものであるが、「だろう・でしょう」の前に省略された叙述部分の文末形態は次の通りである。(1*)は「動詞+否定形容詞」の「みたくもない」、(2*)は名詞の「ここ数年」、(3*)は動詞の「とる」、(4*)は「動詞+助動詞」の「思っていた」、(5*)は「動詞+形容詞」の「わかりやすい」である。(1*)～(5*)を見て分かるように、「だろう・でしょう」の前に省略された叙述部分の文末形態はすべて完全な文である。言い換えれば、助動詞を伴わなくても、それだけで文法的な文になるものである。その点、他の助動詞の単独形式では



どうなるのか、見てみよう³。

(6) 林 ……お土産、何が嬉しいですか。

舞の海 手ぶらでいいですよ。林さんって、お仕事は……

林 作家なんです。

舞の海 ですよね。

林 女優だと思ってた？（笑い）

（林真理子／舞の海秀平「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』

1997年7月25日号 p52）

(7) 「お子さん、もう出来ないの」

「みだいだね」

（平岩弓枝「下町の女・後日」『天の花・地の星』 p248/新潮文庫 1984）

(8) 林 私が勝手に想像すると、龍さんの読者って、都会に住んでて、男の子にもモテテ、セックスもおしゃれも好きな女の子、という感じがする。六本木の青山ブックセンターでいちばん売れるんですって？

村上 みたいですね。静岡県の郊外型のすごくデカい本屋に行ったんだけど、僕の本、一冊しかないの。卒倒しそうになっちゃった（笑い）

（林真理子／村上龍「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997年

8月1日号 p51）

(9) 「かわいい人だね」

少し遅れてくる陽子に、徹は歩みを合わせた。

「ええ、感じのいい方ね。高木さんの小父さんとお近しいの？」

「らしいね。薬局の娘さんだそうだよ」

（三浦綾子『続 氷点（上）』p242 角川文庫 1982）

(10) 「そのうちにいつかあなたも兄貴と話が合うようになるんじゃないかな

³ 「かもしれない」は、辞書では「連語」と記され、文法書では助動詞として扱われないのが普通であるが、寺村（1984:223）では意味的な特徴から一語化したものと見られ、助動詞の中に含められている。

「だろう・でしょう」の単独形式表現

しら」と妻は楽しそうな声で言った。

「かもしれない」と僕は言った。

(村上春樹『ねじまき鳥クロニクル第1部泥棒かさき編』p104 新潮文庫 1997)

(11) 「お医者さんに行った？」

僕は首を振った。「たぶん行っても無駄だろうと思うな」

「かもね」と笠原メイは言った。

(村上春樹『ねじまき鳥クロニクル第2部予言する鳥編』p290 新潮文庫 1997)

(12) 「おやっ、珍しいですね、マスターが二杯目なんて」

ハンバーガー・ショップの主人が言った。

「でもないよ。これでアパートに戻ればひとりで寝酒をやるんだから」

(伊集院静「あづま橋」「あづま橋」p176 集英社文庫 1996)

(13) 林 ……俵さんて、面食らいのほう？

俵 でもないです。……

(林真理子／俵万智「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997年

7月18日号 p50)

(6)～(13)で見た「です」「らしい」「みだいだ／みだいですね」「かもしれない／かも」「でもない／でもないです」も助動詞の単独形式用法であるが、その前に省略された叙述部分を復元すると、次の通りである。

(6*) 林さんのお仕事は作家／ですよね。

(7*) お子さん、もう出来ない／みだいだね。

(8*) 六本木の青山ブックセンターでいちばん売れる／みたいですね。

(9*) 高木さんの小父さんとお近しい／らしいね。

(10*) そのうちにいつか妻の兄と話が合うようになる／かもしれない。

(11*) お医者さんに行っても無駄／かもね。

(12*) 珍しいこと／でもないよ。

(13*) 面食らい／でもないです。

(6*)～(13*)で見た単独形式化された表現における省略部分の文末形態は、名詞(6* 12* 13*)、「動詞+否定助動詞」(7*), 動詞(8* 10*), 形容詞(9*), 形容動詞語幹(11*)である。

以上述べたことを纏めてみると、次のようなことが分かる。「だろう・でしょう」が単独形式化できたのは、その前に来るはずの叙述部分が完全な発話形式を持つためである。その類型には、「です・みだいだ・らしい・かもしれない」、そして、「だ」の否定表現「でもない」などがある。「う／よう」「れる／られる」「せる／させる」「ない」「ぬ」「ます」「たい／たがる」「た」は、その前に来るはずの叙述部分は完全な文でないために、単独形式化が考えられない。断定を和らげていう意味を持つ「そうだ」と不確かな断定を表す「ようだ」は意味上、「だろう・でしょう」と類似しているところがあるが、その前に来る叙述部分には「雨が降りそうだ」「人生は夢のようだ」のような完全でない発話形式があるので、単独形式化が有り得ないと判断してよからう。なお、助動詞の単独形式はすべて「そう+助動詞」に復元され得る、例えば、「そうだろ」「そうでしょう」など。しかし、上の「そうだ・ようだ」は「そうそうだ」「そうようだ」という復元形式が認められない。伝聞助動詞「そうだ」は、その前の叙述内容の文末形態が単独形式化された助動詞のそれと同じだが、「そうそうだ」には復元され得ないので、単独形式が考えられない。

因みに、単独形式ではないが、「だから・だが・だけど・ですから」など、接続詞といわれるようなものも、助動詞の単独形式ができた原理と同じように、その前部の叙述部分が省略されたことによってできた表現形式である。そして、書き言葉では使われないし、普通の日本語教育関係の書籍（例えば、日本語教育学会編『日本語教育事典』「概説」の接続詞類各説部（森田良行主筆）や渡辺正数『教師のための口語文法』右文書院など）では接続詞として紹介されていないようだが、談話においてよく用いられる例は次のように見られる。

(14) (電話で)

「ここに来た？」

「行かないよ。まっすぐ帰ったから」

「ならいいけど。……」

(田村志津枝訳「炎夏の都」朱天文『安安の夏休み』p125 筑摩書房 1992)

(15) 「本当に逢ってくれるんだね、いや本当に、嬉しいな」

「だろう・でしょう」の単独形式表現

デートの約束を承知した時、電話のむこうの松井豊の声が弾んで聞こえた。

「なら、どこへ行こう………」

(伊集院静「あづま橋」『あづま橋』p109 集英社文庫 1996)

(16) 夫人 何ブツブツいってらっしゃるんです？

重役 あ、いや、ミスター・ランドルフがね、あした着くんだよ。

夫人 ランドルフさん……ていいますと。

重役 ニューヨークでね、ごちそうになったんだ……それでね何かいいみやげものをと思ってるんだが……。

夫人 でしたらね、うるしのものなんかどうかしら？

(向田邦子『森繁の重役読本』p195 文春文庫 1993)

(14)～(16)で見た下線部分は、すべて「だ・です」の活用形による表現である。なお、助動詞でないものの例も認められた。

(17) 林 それだけ洋服が人に与える影響力って大きいんですね。

山本 と、僕は思ってやってるんですけど、一般的にはそう思われてないですね。……

(林真理子／山本耀司「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997

年7月11日号 p52)

(18) 林 それは懐が大きい。

吉森 というより、しょうがないんですよ。

(林真理子／吉森規子「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997

年6月6日号 p51)

上述したことから、単独形式化された「だろう・でしょう」は、個人性によるものでもなく、偶然にできた表現でもないことが分かる。

2.3 「だろう・でしょう」と終助詞との共起

この項では、「だろう・でしょう」と終助詞との共起について考察してみたい。「だろう」と「でしょう」は普通、後者は前者の丁寧形だといわれるが、単独形式化用法における終助詞との共起では、両者の形態的な違いが見られる。筆者が採集したものでは、「だろう」には(3)のように終助詞を付け

ない用例もあれば、(1)(19)(20)のように「さ」「な」「ね」を付けた用例も認められた⁴。

- (19) 「ナーニ、体をこわしたとしたら、あいつは女遊びでこわしたんだ」
「遊ぶ？ 村井が？」
「だろうな。マージャンはやるし」

(三浦綾子『氷点』 p60 朝日新聞社 1965)

- (20) エイッ、と衣津子が声を上げて掬い手を持ち上げた。
鯉は平然と、衣津子の掬い手の紙を破って半回転した。
「ああ、駄目だ」
衣津子がため息混じりに声を出した。
「だろうね。もうちょいだったよ。どうだい。頬っぺた痛くない……」
と雄次が言った。

(伊集院静「あづま橋」『あづま橋』p130 集英社文庫 1996)

それに対して、「でしょう」は(2)(4)(5)のように、その後に何も来ないのがほとんどであり、終助詞と共に起するような用例が見当たらなかった。終助詞との共起における「だろう」と「でしょう」との違いは、意味的側面と語用論的側面によるものだと思われるが、詳しくは3、4で考察する。

3. 意味論的考察

3.1 文末における「だろう・でしょう」の意味

人間の認識活動で直接認識できないこともあるが、そういう時に、人間は間接認識に頼って認識を広げる。間接認識の代表は推量という思考活動だと言えるが、「だろう・でしょう」は推量を表す助動詞である。普通の〔叙述内容+だろう・でしょう〕文における「だろう・でしょう」の意味は次のよ

⁴ 金(1995)は「だろう」などの単独形式化モダリティが終助詞と共に起するときにはほとんど「ね」としか共起しない、と述べている。但し、筆者の考察で、「だろう」が「ね」の外に「さ」「な」と共起することが明らかになった。

うにまとめられる⁵。

- a 推量を表す。 例：夜は寒かったでしょう。
- b 確認を表す。 例：まさかあの話はうそではないんでしょうね。
- c 提示を表す。 例：……あの兄貴があんな有様なんだろう。何時まで苦労するのだからわからねえやうなものだ。
- d 強調を表す。 例：どんなにつらかったことだろう。
- e 疑問を表す。
自問 例：もう来ないだろうか。(↙)
疑問 例：もう来ないだろうか。(↗)
- f 間接的な丁寧さを表す。
例：ごめんください。山口先生のお宅はこちらでしょうか。

一般に話し手の叙述内容に対する関わり度が間接であればあるほど、「だろう・でしょう」の持つ不確実性の意味が強まる。そして、a～fの例を見て分かるように、談話における「だろう・でしょう」の役割は（A）相手の発話をしめくくり、続けて自分の発話を開始すること、（B）会話を柔らかくすること、（C）相手との距離を小さくすることである。

3.2 単独形式「だろう・でしょう」の意味

次は用例を分析して、単独形式「だろう・でしょう」の意味を考察してみたい⁶。

- (21) 「嫂さん、おととしの暮れに映画会社のカレンダーもらったでしょ」「でしょうね、よく覚えてないけど」

(曾野綾子「絹さやえんどうの花」『夫婦の情景』p208 新潮文庫 1983)

(21) の「でしょう」は、よく覚えていないことに対する推量判断を表す。終助詞「ね」について、話し手の婉曲的な判断が表わされている。

⁵ 三尾 (1958:205～209)、スワン (1992) 参照。

⁶ 説明の便宜上、(19)(3)(2)(4)(5)を(23)(26)(27)(28)(31)として再録する。

(22) 「鮭は必ず、夫婦なんですよ」

恭次郎は言った。

「愛し合って仲のいい二匹が、助け合って最後の旅をここまでやって来て、牡が河床の小石を掘って産卵するのを、牡が手助けもするし、守りもするんです。そして、生んでから後、数日間体力のある間、二匹はずっと卵の上にいましてね。それで力尽きて死ぬんだそうです」

時々鮭の中には流れを溯らずに、流れにもまれながら下流へ流されるものもあった。

「ああいうのが、もしかしたら」

磯子は息をひそめるように言った。

「でしょうね。もう最期が近いんでしょう。……」

(曾野綾子「鮭の上の川」『夫婦の情景』p295 新潮文庫 1983)

(22) の「でしょうね」は、流れを溯らずに、流れにもまれながら下流へ流される鮭は、もしかしたら産卵した後の愛し合って仲のいい二匹だろうという相手の推量に同調しているのである。そして、「ね」が連なったことで、話し手の軽い確認が表されている。

(23) 「ナーニ、体をこわしたとしたら、あいつは女遊びでこわしたんだ」

「遊ぶ？ 村井が？」

「だろうな。マージャンはやるし」

(23) の「だろう」は、相手の質問に対して、「あいつは女遊びで体をこわした」ことを婉曲的に判断したのである。その後に「な」がついたことで、話し手の念を押す気持ちが出されている。

(24) 「友一郎は、ちょっと呆れたんじゃないでしょうか」

「だろうね」

(有吉佐和子『青い壺』 p79 文春文庫 1980)

(24) の「だろう」は、「ね」を伴った表現で、相手の「友一郎は、ちょっと呆れた」という考え方方に同調した婉曲的な断定である。



(25) エイッ、と衣津子が声を上げて掬い手を持ち上げた。

鯉は平然と、衣津子の掬い手の紙を破って半回転した。

「ああ、駄目だ」

衣津子がため息混じりに声を出した。

「だろうね。もうちょいだったよ。どうだい。頬っぺた痛くない……」
と雄次が言った。

(伊集院静「あづま橋」『あづま橋』p130 集英社文庫 1996)

(25) の「だろう」は、相手の「駄目だ」という考え方方に同調した婉曲的な断定である。「ね」を連ねたことで、自分の主張を表している。

(26) 林 デンドロ?

つか 僕が作った言葉なんだけど、一家で香典泥棒をやって渡り歩いているっていう設定で、「蒲田行進曲」の完結編ね。小夏から生まれた女の子が六つになるときからの話なんだけど、その女の子が難病で死ぬし、小夏も銀ちゃんのことを忘れられなくて、それで小夏はヤスと離婚して……。

林 あ、可哀相。ヤスが捨てられちゃうんだ。でもふつう、みんな風間杜夫のほうをとりますよね。(笑い)

つか だろ? 変えたんだ。暗い話なんだけどね。

(林真理子／つかこうへい「マリコの言わせてゴメン!」『週刊朝日』
1997年4月11日号 p52)

(26) の「だろ」は、相手の意見に同調したと共に、自分の共感を強調する意識が含まれている、強める用法である。

(27) 宮内 ……このままでは、二十一世紀に今よりいい社会を残していくのか、非常に疑問を持っている。

堀 そういう気持ちは、いつから持ち始められたんですか?

宮内 ここ数年ですね。

堀 でしょう。宮内さんの中で変化が起きているんですよ。

(宮内義彦・堀絢一「経営者十番勝負」『週刊朝日』1997年11月)

14号 p124)

(27) の「でしょう」は、相手が言った「ここ数年」のことを確認した上で、「宮内さんの中で変化が起きている」という自分の意見を持ち出した。

(28) 孫 日本はただできえ遅れてるんです。一人当たりのパソコンの普及率は世界で十七番目だし、インターネットの普及率は二十五番目です。イタリアにもイギリスにもフランスにもシンガポールにも負けてるんです。

林 日本って、一番エレクトロニクスが好きだと思っていましたけど。
孫 でしょう？ 「電子立国」といいながら、日本は最先端の電子の世界で、完全に置いていかれて、しかも差が開いている。…

(林真理子／孫正義「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997年4月4日号 p52)

(28) の「でしょう」は、相手の考え方を再確認するのである。そのあと、一人当たりのパソコンの普及率は世界で十七番目だし、インターネットの普及率は二十五番目だという事実をもって、日本は最先端の電子の世界で、完全に置いていかれて、しかも差が開いている、と解釈した。

(29) 村上 ……この十年のレコード大賞って、マリちゃん、何人言える？

林 全然覚えてない。

村上 でしょう？ なんてそういうことが記憶に残らないんだろうか。だれも言わないんだけど、原因ははっきりしてて、日本の近代化がもう終わってるんです。近代化の途上では、国家的な目標に向かってみんなが一丸になったり、国民的なムーブメントが起こる。……。

(林真理子／村上龍「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997年8月1日号 p52)

(29) の「でしょう」は、相手が言った、この十年のレコード大賞を全然覚えていない、ということを相手に再確認するのである。

(30) 三谷 「ヒットメーカー」と言われるわりには、ヒットしてないですよ(笑い)。ヒットしたのは「王様のレストラン」と「古畑任三郎」だけで、あとみんなコケました。そもそもまだ五本しかやってないです。

林 エッ、まだ五本!

三谷 でしょう? ヒットメーカーと言われる北川悦吏子さんや野島伸司さんに比べると、僕なんか一緒に名前が並んではいけない人間なんです。

(林真理子／三谷幸喜「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997年11月14日号p50)

自分自身のことを言う場合は普通、「だ」か「です」の断定をとるが、きつい断定を避けるために、推量の形をとった「でしょう」を用いることがある。(30)の「でしょう」はその例であるが、自分がまだ五本しか脚本をやっていないことに対する相手の驚きを婉曲的に断定した表現である。その言ひ方には、その事実を強めて言うニュアンスが含まれていると思われる。

(31) 内館 ……そんなレベルの武将だったから、こんな視聴率でよかつたと思ってる。

林 すごくわかりやすいよね。「こういう国がありました」と解説つき。

内館 でしょ? ……

(林真理子／内館牧子「マリコの言わせてゴメン！」『週刊朝日』1997年3月14日号p48)

(31)の「でしょ」は、こういう国がありましたと解説つきですごくわかりやすいという、自分の作品を評価してくれた相手の意見に同調すると共に、自分の共感を強調する意識が含まれている、強める用法である。

以上の考察で分かるように、単独形式「だろう・でしょう」は提示、疑問、丁寧さの意味を表さないが、推量、確認、強調の意味を表すのである。場合によっては、一つの表現に複数の意味が含まれていることも見られる。3.1

の「だろう・でしょう」と違っているのは、相手の意見に同調すると共に、自分の共感を強調するニューアンスが強いし、(21)(30)のように自分のことにも用いられることである。基本形の「だろう・でしょう」は短呼形の「だろ・でしょ」より表現が婉曲で、短呼形の「だろ・でしょ」は基本形の「だろう・でしょう」より表現が強いようである。

3.3 単独形式「だろう・でしょう」の成立条件

2.2 で見たように、「だろう・でしょう」は、(1*)~(5*)のように復元されるほかに、すべて「そうだろう／そうでしょう」と言い換えられる。「そう」は、「あ、そうだ、朝は何時にお起きになるんですか」のように、話し手の思い浮かべた内容を指している、指示の意識が薄い表現として用いられることもあり、相手の言ったことの中の事柄を指す、指示の意識が強い表現もある⁷が、本稿で見た用例は、全部後者である。その点は、「だろう・でしょう」と他の助動詞単独形式との共通点のようである。言い換えれば、「だろう・でしょう」などの助動詞単独形式において省略された叙述部分は、話し手も聞き手も認知している旧情報である。叙述内容が旧情報でない場合は、省略されるようなことがなく、助動詞単独形式も有り得ないのである。伝聞助動詞「そうだ」が単独形式を有しないのは、2.2 で述べた形態的制約の他に、旧情報の必須条件という意味的制約によることも考えられる。話し手が伝聞の形で、ある情報を情報として聞き手に伝えたとき、それは聞き手にとって新情報であることもあろう。もちろん、相手が伝えてくれた情報を聞いて、「そうだね」とあいづちを打つこともあるが、それは指示詞「こう・そう・ああ・どう」の中の、聞き手のなわ張りの「そう」に当たるものであり、伝聞助動詞の「そうだ」ではないのである。相手から聞いた同じ情報を同じ伝聞の形で「伝」えてやることは不自然であろう。

助動詞の単独形式において旧情報が必須条件であることは、終助詞「ね」との共起からも考察される。本稿の対象では、(20)(21)(22)(24)の「だろうね」「でしょうね」などの用例が採集されたが、他の助動詞の単独形式には、

⁷ 寺村・他 (1990) p41~42 を参照。

「らしいね」「かもね」「みだいだね」「みだいですね」などが認められた。終助詞「ね」は、軽い詠嘆の気持ちを含む判断、軽い主張や念を押す気持ち、同意を求める、返答を促す、質問・詰問などの意味を表す⁸が、その使用条件はやはり叙述内容が話し手も聞き手も認知している旧情報でなければならないことである。用例(20)(21)(22)(24)の「だろう」「でしょう」に付いた「ね」は軽い主張や軽い詠嘆の気持ちを含む判断と言えよう。

「ね」の外に、単独形式「だろう」には「さ」「な」が付いた用例もあるが、両方とも軽い断定を表すものである。「さ」「な」はぞんざいな表現なので、普通、丁寧形の「でしょう」の後には来ない。

4. 語用論的考察

筆者の考察では、単独形式化「だろう・でしょう」には、会話文以外に用いられないこと、いつも話し手の発話の一番初めに來ること、接続詞的になって相手との共話を形成すること、などの職能がある。その点、普通の完全な文の文末における「だろう・でしょう」とはずいぶん違っている。この項では語用論的側面から、話し言葉における単独形式化「だろう・でしょう」の機能や位相などについて検討してみたい。

4.1 省略による経済性

話し言葉における文は、1一語文 2助詞のない文 3述語のない文 4主節のない文 5言いさし 6分担表現（共話） 7繰り返し 8言い直し 9言い換え 10挿入 11倒置 などがあげられる⁹。国立国語研究所『話しことばの文型』「一語文」の項目には単独形式化助動詞文が見当たらないが、前にあげた用例で見たように、単独形式化「だろう・でしょう」は「そうだろう・そうでしょう」に言い換えられ、「雨！」や「なるほど」「たぶんね」などと同じようにあるまとまった意味を表す一語文だと言える。それは前部

⁸ 国立国語研究所（1951）「ね」項を参照。

⁹ 丸山（1996）を参照。

の叙述内容の省略によってできた叙述形式である。言語運用から見れば、省略の主な目的は、言わなくても聞き手にとって自明の情報を省くことによって、文の冗長度を下げる事である。それ故に、省略は便利で、経済的である。

4.2 コミュニケーションにおける機能

会話には、会話の始め方、会話の進め方、話題転換、話者交替、会話の終り方という仕組みがある¹⁰。単独形式化「だろう・でしょう」は会話の進め方の技法の一つである。それは、確認や、婉曲的な断定、相手に同調する気持ちを表すことによって、話し手と聞き手との心理的距離を短縮して、自他の仲間意識や連帯感を表現し、与えられた情報に関して話し手が聞き手に同一の認知状態を持つことを積極的に聞き手に伝えようとする表れである。婉曲的な断定を表すときは、相手への思いやりということが考えられる。これは、いわば単独形式化「だろう・でしょう」ができた日本の文化的背景である。

ちなみに、単独形式化「でしょう／だろう」は確認を表すとき、「やっぱりそうだろう／でしょう」の省略形になるので、話し手の考えが正しかったことを示す意味があるが、推量形をとったために、強い断定のニュアンスが柔らかくなって婉曲的な表現になるのである。

4.3 共話作成の機能

会話において発言権を取ることも会話の進め方の技巧の一つであるが、それには次のようなタイミングがあげられる。第1に、当面の話者が一通り話し終えた場合、第2に、今まで話していた人が質問してきた場合、第3に、自分が指名された場合、第4に、当面の話者の発言に割り込む形で発言する場合などがある。上述した用例では、単独形式化「だろう・でしょう」は第1、第2の場合に用いられた表現である。当面の話者が一通り話し終えた場合か今まで話していた人が質問してきた場合の発話なので、いつも発話部分

¹⁰ 橋内（1988）を参照。



の一番最初のところに現われるのが当然である。もし、それだけで発話が終わったとすれば、「だろう・でしょう」はあいづち的になると言えよう。若しも、あとに続けて発話がされれば、前に来るはずの叙述部分が省略されたゆえに、発話の一番最初のところに来る「だろう・でしょう」は、まるで相手の話しを受けて引き続いてそのあとを述べるようになる。このような、話し手が相手と共にある話を全うするような話し方は「共話」というものであるが、「共話」は談話における便利さ、経済性を図る結果である。「だろう・でしょう」のような単独形式は、文脈依存性が高く、「共話」を重視する日本語ならではの表現形式だと言える。水谷（1988）は、日本人は「対話」ではなく「共話」的な話し方をするためにあいづちが多い、と指摘しているが、それは単独形式化「だろう・でしょう」の場合にもあてはまる。但し、単独形式化助動詞における共話は、「だろう・でしょう」にしかない形式ではなく、「らしいね」「みだいですね」「かもしれない」「でもないです」にもその例が見られる。また、(14)～(18)で見たような、接続詞的「なら」「でしたら」「と」「というより」などにも、共話を作り上げる働きを持つ。言い換えば、単独形式化「だろう・でしょう」は、日本語に多い共話現象を作り上げる要素の一つだというわけである。

ちなみに、今度の採集例には見られないが、「こっちのほうがおいしい、でしょう」というような発話が考えられる。この「でしょう」も単独形式と言える。但し、それは共話形式ではなく、話し手の自己主張の外に、相手に同調を求めるような表現なので、終助詞「ね な さ」などを伴わない。

4.4 位相

ここでは、話し手の性別から単独形式化「だろう・でしょう」について考えてみたい。筆者が採集した用例を分析してみると、「だろう」の話し手は全部男性であるが、「でしょう」の話し手は男性も女性もある。遠藤（1997）は、「でしょう」は中立的な文末表現で、男性にも女性にも用いられる、と指摘している。「だろう」はよく男性的文末語句だと言われるが、女性が用いることも少なくない。そうすると、単独形式化「だろう・でしょう」はどちらも中立的な表現だと言えよう。しかし、終助詞が付いた場合は少し違う。

「ね」が付いたものは中立的な表現であるため、男性も女性も使うことが考えられる。そして、「な」や「さ」が付いた場合、「な」「さ」が普通女性がほとんど使わないとされる表現なので、男性に限るものだと考えられよう¹¹。但し、今時の日本の若い女性のことばの実態を見れば、親しい女性同士、例えば女子中学生や女子高校生は、「だろうさ」「だろうな」を用いないとも限らないだろう。

5. 日本語教育における単独形式化「だろう・でしょう」の位置付け

前の考察で分かるように、談話において、単独形式化「だろう・でしょう」は「まさか」や「なるほど」「たぶんね」などと同じように一語文だと言える。藤原（1988）が指摘したように、話し言葉教育には、「文」意識の教育が重要である。「文」把握の訓練が肝要である。但し、文というのは、普通の完全な单文だけではなく、日本語の話し言葉でよく使われる、単独形式化「だろう・でしょう」のような完全でない文も多くある。管見の限りでは、日本語の文法書でも台湾日本語教育用教科書でも、単独形式化「だろう・でしょう」が殆ど取り扱われていないようである。台湾日本語教育の場合においては、それは、今までの品詞論中心主義や文論中心主義による結果だと思われる。授業時間の制限や従来の学説に拘る制限により、提出されていないと考えられるが、日本人の話し言葉を理解するためにも、学習者の会話力がいまひとつだといわれる台湾日本語教育の話しことば教育を強化するためにも、「だろう・でしょう」のような助動詞の単独形式を導入すべきだと言うことを提言したい。但し、次の中国語訳を見て分かるように、中国語では日本語の省略された部分を復元するような言い方も見られる。

「辻口はどうなんだ」

「女の子なんか、みたくもないね」

「だろうさ……」

（三浦綾子『氷点』 p.60 朝日新聞 1965）

「你心裏以為如何？」

「女孩子，我看都怕看得！」

「大概是這樣。……」

（徐白 訳『冰點』 p.87 微信新聞報 1966）

¹¹ 遠藤（1994）、高崎（1996）を参照。

それで、話し言葉教育における導入にあたり、完全文の提出はその前提である。導入の際、前部の客体的な事柄の部分が省略されたという解説付きで、単独形式化「だろう・でしょう」を一語文として提出すればいい。初級段階では基礎的な日本語表現を身に付けることが要務なので、単独形式化「だろう・でしょう」のような一語文の導入は中級に上がってからにしたほうが妥当である。そして、單文ではなく談話の形で提出したほうが効果的であろう。

6. しめくくり

以上考察したことまとめると、次のようになる。普通、単独形式では文の成分に成り得ないとされている「だろう・でしょう」は、話し言葉では単独形式で一語文になる用例がよく見られる。それは一種の省略による表現形式であるが、その前に省略された叙述部分の文末形態は完全な文でなければならない。「だろう・でしょう」は、話し手の推量の意味のほかに、相手への同調や婉曲的な判断、確認、相手との共感の強調などを表す。その成立条件としては、前の省略された叙述部分の文末形態が完全な文でなければならないことの外に、省略された叙述部分が話し手も聞き手も認知している旧情報であること、「そうだろう・そうでしょう」の形式に復元され得ることが挙げられる。そして、便利で、経済的である「だろう・でしょう」の単独形式は、会話の進め方の技法の一つで、「らしいね」「みたいですね」「かもしれない」「でもないです」「なら」「でしたら」「と」「というより」などと同じように、日本語に多い共話現象を作り上げる要素の一つである。

単独形式化「だろう・でしょう」は、相手を意識し、相手との連帯感や仲間意識を重視する日本語の文化的背景による表現である。形態的には不完全な嫌いこそあるが、意味的には外の完全文と同じようなまとまったものである。日本語の話しことばにおいては、れっきとした一語文である。それがゆえに、日本語教育では、そのような表現形式を無視してはならない。また、日本語教育機関や日本語教師は話し言葉と書き言葉の違いをはっきり認識した上で、分科教育のやり方を取り、話しことば教育を独立したプログラムと

するよう、努力すべきである。

指導の際、台湾日本語教育の場合は、中日両国語の相違に留意しながら、旧情報である前部の客体的な事柄の部分が省略されたという解説付きで単独形式化「だろう・でしょう」を提出し、その成立や意味を説明して学習者に理解させることが望ましい。

本稿が日本語教育の話しことば指導に何かの助益になれば幸甚である。

参考文献

- | | | |
|---------|------|--|
| 遠藤織枝 | 1994 | 「若い女性のことば—論評で綴るその昭和史」
『日本語学』13-10 明治書院 |
| | 1997 | 「ドラマのことば—NHKTV『レイコの歯医者さん』をめぐって」『日本語学』16-1 明治書院 |
| 金 東 郁 | 1995 | 「単独形式化モダリティ」『日本語と日本文学』第21号 筑波大学 |
| 久野 暉 | 1978 | 『談話の文法』 大修館 |
| 国立国語研究所 | 1951 | 『現代助詞・助動詞—用法と実例一』 秀英出版 |
| 国立国語研究所 | 1960 | 『話しことばの文型』 |
| 阪倉篤義 | 1986 | 『改稿日本文法の話 第2版』 教育出版 |
| スワン彰子 | 1992 | 「モダリティ『でしょう』について」『講座日本語教育』第27分冊 早稲田大学日本語研究教育センター |
| 高崎みどり | 1996 | 「テレビと女性語」『日本語学』15-9 明治書院 |
| 寺村秀夫 | 1982 | 『日本語のシンタクスと意味I』 くろしお出版 |
| | 1984 | 『日本語のシンタクスと意味II』 くろしお出版 |
| 寺村秀夫・他 | 1990 | 『ケーススタディ日本語の文章・談話』 桜楓社 |
| 時枝誠記 | 1941 | 『國語學原論』 岩波書店 |
| 仁田義雄 | 1989 | 「現代日本語文のモダリティの体系と構造」
『日本語のモダリティ』 くろしお出版 |



「だろう・でしょう」の単独形式表現

- | | | |
|---------|------|---|
| 橋 内 武 | 1988 | 「会話のしくみを探る」『日本語学』7-3 明治書院 |
| 畠 弘 巳 | 1988 | 「外国人のための日本語会話ストラテジーとその教育」『日本語学』7-3 明治書院 |
| 藤 原 与 一 | 1988 | 「私の『話しことば』観」『日本語学』7-3 明治書院 |
| 益 岡 隆 志 | 1987 | 「モダリティの構造と意味—価値判断のモダリティをめぐって」『日本語学』6-7 明治書院 |
| 丸 山 直 子 | 1996 | 「話しことばにおける文」『日本語学』15-8 明治書院 |
| 三 尾 砂 | 1958 | 『話しことばの文法』 法政大学出版局 |
| 水 谷 修 | 1979 | 『話しことばと日本人』 創拓社 |
| 水 谷 信 子 | 1988 | 「あいづち論」『日本語学』7-12 明治書院 |
| 森 岡 健 二 | 1980 | 「伝達論から見た省略」『言語生活』393号 築摩書房 |

(賴錦雀 東吳大学日本語学科 副教授)

